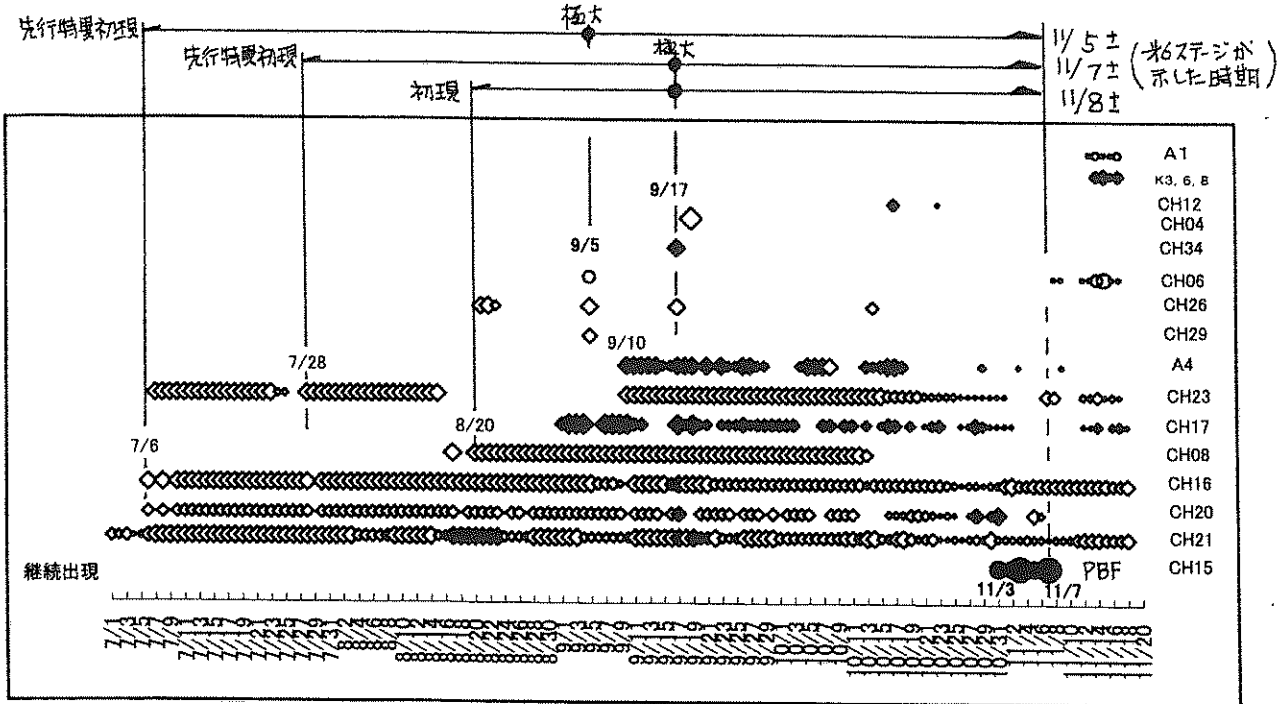


原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏領域地殻大型地震の可能性推定前兆 続報 再検討
第6ステージが示す時期→11月初旬 11月初旬=CH15PBF出現
11月初旬=CH15-PBF極大から第7ステージに入ったと認識



No.1778=5年以上前兆継続の特殊前兆(近畿圏地殻大型地震の可能性推定前兆)の続報です。

No.2439(11/17配信)実験観測情報及びPHP新書読者へのフォローHP(続報No.54)で報告のとおり、それまでの認識から11/16-17±時期に前兆終息が推定されましたが、終息せず、明らかに第6ステージ前兆群の認識が間違っていたことが明らかとなりました。

本日11/18夕刻現在、まだ前兆は継続出現しておりますので、近々に対応地震発生の可能性は完全否定できません。

さて、現在までの第6ステージ認識前兆群の動向変化をあらためて見ますと、9/5 9/18の二つの極大(複数観測装置反応)が明確で、10月末には全体的に前兆が静穏化しています。そして、11月初旬にCH15の見事な連続PBF(極大)波形出現が観測されました。CH15-PBF出現のあとは、複数観測装置に前兆が出現しだしています。

7/6からCH16, CH20, CH23に前兆が出現開始していますが、特にCH23は8月中旬に終息しています。この様な出現形態は先行特異に良く見られる特徴であることから、7/6を先行特異初現と再認識しました。またCH23は途中で一旦静穏化して7/28から再び継続して終息しています。7/6と7/28が先行特異初現と考えますと、明確な複数観測装置による極大は、9/5と9/17しかありません。先行特異初現~極大:極大~発生=1:1経験則を使用しますと、11/5~11/7±が計算されます。また8/17を中心に継続出現したCH08の特異初現が8/20に認識されます。8/20を初現、9/17を極大と認識し、T_{fap}:T_{map}=20:13経験則を使用しますと、11/8±が計算されます。

つまり、第6ステージ認識前兆群が示す時期→11月7日±であったこととなります。この示された時期にハヶ岳のCH15に連日PBFが集中出現(出現継続時間計=120時間強→M7.8±相当)したこととなります。この時期にCH15にPBFが極大出現した理由がやっと理解できました。

従って、11月初旬のCH15-PBFから第7ステージに突入したこととなります。こんなことがより初期の段階で認識できなかったことは、単純に小生の力量の無さによるもので、本当に申し訳なく存じます。心より深くお詫び申し上げます。本当に情けなくなります。どうかお許し下さい。

さて、11月初旬のCH15-PBF=『第7ステージの最初の極大』ですが、弱いPBFまで見ますと11/3の継続時間が長く、明確顕著なPBFが一番長く継続出現したのは最終日の11/7でした。どちらを極大認識するか難しい状況です。このCH15-PBF極大に対し、前兆初現又は先行特異を探しますと、9/10からA4, CH23に特異が継続出現しています。10月末で一旦終息していることから、先行特異の可能性が濃厚です。9/10先行特異初現~11/5(中心)極大認識しますと、12月末~11月初旬時期(12/31±4)が計算されます。(最近出現した複数観測装置の前兆から次の極大が出現する可能性も示唆される)少なくとも12月下旬までは発生の可能性は否定できません。仮に2014年01月初旬時期となった場合には、2008年07月初旬から実に5年半と云う長さとなります。

今後を観測して、第7ステージが示す時期を正確に求めたいと考えます。引き続き、続報させていただきます。